

踏み出そう、世界への一歩。

学術の 国際交流

世界中の研究者とともに。
国際的な研究活動は、
ここから始まります。



JSPS

JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE
日本学術振興会

INDEX

日本学術振興会(学振)は、
人文学、社会科学から自然科学までの
あらゆる分野にわたり、
学術の振興を図ることを目的とする
日本で唯一の
ファンディングエージェンシーです。



学振は、①世界レベルの多様な知の創造、
②知の開拓に挑戦する次世代の研究者の養成、
③大学等の強みを生かした教育研究機能の強化、
④強固な国際研究基盤の構築、
⑤総合的な学術情報分析基盤の構築
の5本の柱を基盤に、
学術振興に不可欠な諸事業を積極的に実施しています。

このリーフレットでは、学術研究活動のグローバル化や研究者の国際流動性を一層促進する観点から、諸外国の学術振興機関との間で築いた協力関係を土台に実施しているプログラム等を紹介いたします。多様なニーズに応えるプログラムを皆様にご提供しておりますので、ぜひ、積極的に申請をご検討ください。

学術国際交流事業の活用事例 ～外国人特別研究員～

P3

国際的な共同研究や
セミナーを行いたい

P5

外国人研究者を
日本に招へいしたい

P7

研究者ネットワークを広げたい

P8

事業
の
概
要

国際的な経験を積みたい／
若手研究者に国際的な経験を積ませたい

P9

アウトリーチ活動に参加したい

P10

海外で長期間研究したい

P11

海外経験を活かして
日本で研究したい

P11

大学を国際化したい

P12

お問い合わせ連絡先

P13

国際的な研究者交流の 活性化を目指して

学術国際交流事業の活用事例 ～外国人特別研究員～

【外国人特別研究員】

ディアナ バルガス - トゥルウヒロ 研究員

コロンビア出身／ラ・サバナ大学修了(博士)



申請のきっかけは日本での研修

私はコロンビアにあるラ・サバナ大学の博士課程在籍時、群馬大学の鯉淵典之教授の研究室で実務研修を行いました。その素晴らしい経験を経て、自分のキャリアや日本での生活の新たな目標を持ちたいと考えるようになりました。

学位取得後、科学を通じて社会に影響を与える道を提供するとともに、活発な国際的研究ネットワークに参画できるような研究員制度を探していました。学振の事業に採用されることが夢となり、現在の受入研究者である稲垣毅教授のサポートのもと外国人特別研究員事業に申請することになったのです。

自分の経験を次世代につなげたい

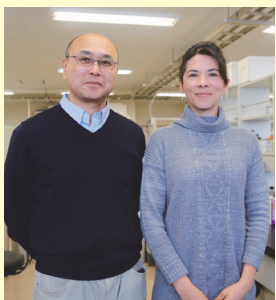
私の研究はRNAのメチル化修飾を介する脂肪細胞分化制御の新メカニズムを見つけることを目的としています。現在、この修飾が肥満や代謝性疾患の制御に重要であることが明らかになりつつあります。エピジェネティクスや代謝性疾患の

分野で幅広い知見のある稲垣教授のラボに参加できることになり、豊かなアカデミック環境、実験結果へのメンバー同士での厳しいディスカッション、最先端の設備のおかげで私自身の科学者としての能力や技術が向上しました。

任期終了後は、母国コロンビアでの実験技術の発展を目指し研究を続けるとともに、学振の事業経験者が利用可能な各種事業を通して、日本とコロンビア両方の私の所属機関間の連携を強化していきたいと思っています。次世代の研究者交流を活性化させるために、若手研究者が学振の外国人特別研究員に申請し、実際に日本の生活を体験することを促進していく予定です。

- 研究課題名 : RNAメチル化修飾による脂肪細胞分化制御
- 受入研究機関 : 群馬大学生体調節研究所
- 採用期間 : 平成30(2018)年11月16日～令和2(2020)年11月15日

外国人特別研究員事業については、7ページをご覧ください。



【受入研究者】

群馬大学生体調節研究所
教授 稲垣 毅

多様な視点をもた らす必要不可欠なメンバー

学振の外国人特別研究員事業により、当研究室にディアナさんを迎えることができましたことを大変喜ばしく思っております。当研究室は環境変化の体細胞記憶を司る分子機構の解明を目指しておりますが、ディアナさんは日本の生活にも慣れ、当研究室で様々な新技術を学んでおられます。彼女が私ど

ものチームの最初の特別研究員として加わり、新しいプロジェクトを開始することは大きな挑戦だったと思いますが、研究面だけでなく研究室の国際化の発展に大きく貢献しており、当研究室で新たに日本での生活を開始した2名の外国人研究員のサポートに尽力してくれています。私は研究を発展させるには、様々な側面から多様な視点を持つことが重要だと思っています。その点において、彼女は研究室に必要不可欠なメンバーです。これからも私どもの研究室は一丸となって素晴らしいサイエンスを継続していきたいと思っています。

国際的な共同研究や セミナーを行いたい

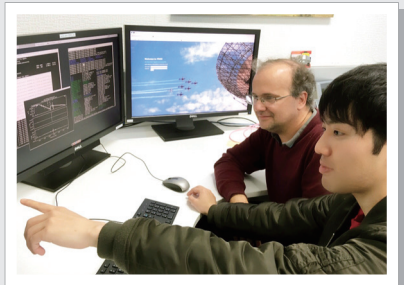


諸外国との二国間交流事業／特定国派遣研究者

担当：研究協力第二課・人物交流課

■二国間交流事業

二国間の研究チームの持続的ネットワーク形成を目指し、共同研究・セミナーの実施に要する経費を支援します。①諸外国との覚書や協定等に基づき行うもの(対応機関等との合意に基づく共同研究・セミナー)と、②日本と国交のある全ての国を対象として行うもの(オープンパートナーシップ共同研究・セミナー※)の2種類があります。



オーストラリアとの共同研究
(熊本大学、高橋慶太郎准教授) (熊本大学提供)

<https://www.jsps.go.jp/j-bilat/semina/jrss.html>

※令和2(2020)年度募集より、大学コンソーシアム等による組織的な取組を支援することにより、更なる二国間の連携強化に資するため、「オープンパートナーシップセミナー(大学間連携)」を新設しました。

■特定国派遣研究者

我が国の研究者が相手国の研究者を訪問し、研究、意見交換等を行うための経費を支援します。

<https://www.jsps.go.jp/j-bilat/tokuteikoku/ex.html>

国際共同研究事業 担当：研究協力第二課

海外の学術振興機関との連携のもと、我が国の大学等の優れた研究者が海外の研究者と協力して行う共同研究の推進と、若手研究者の研鑽機会の充実を目的として国際共同研究を支援します。

<https://www.jsps.go.jp/j-bottom/index.html>

科学研究費助成事業 国際共同研究加速基金

担当：研究助成企画課

■国際共同研究強化

(A) 科研費に採択された研究者が半年から1年程度海外の大学や研究機関で行う国際共同研究を支援します。基課題の研究計画を格段に発展させるとともに、国際的に活躍できる、独立した研究者の養成にも資することを目指しています。

(B) 複数の日本側研究者と海外の研究機関に所属する研究者との国際共同研究を支援します。学術研究の発展とともに、国際共同研究の基盤の構築や更なる強化、国際的に活躍できる研究者の養成も目指しています。(3～6年間)

<https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/index.html>

日中韓フォーサイト事業

担当：研究協力第一課

日中韓の学術振興機関が共同で、世界トップレベルの研究拠点の構築を目的として実施する共同研究、セミナー等の活動を支援します。

<https://www.jsps.go.jp/j-foresight/index.html>



「第3回A3CPRH年会」集合写真(平成30(2018)年11月 韓国・済州市)
(東北大学大学院理学研究科提供)

研究拠点形成事業 担当：研究協力第一課

■A. 先端拠点形成型

世界的水準の研究交流拠点の構築を目的として、世界各国の研究機関との協力関係により実施する共同研究、セミナー等の活動を支援します。

■B. アジア・アフリカ学術基盤形成型

アジア・アフリカ地域における諸課題の解決に資するため、アジア・アフリカ諸国の研究機関と実施する共同研究、セミナー等の活動を支援します。

<https://www.jsps.go.jp/j-c2c/index.html>



← 秋田大学BIUSTオフィス(ボツワナ)で行われた、各国事業責任者によるセミナー(平成30(2018)年6月)(秋田大学提供)

→ JICA地球ひろば(東京)で行われた、合同国際シンポジウム(平成30(2018)年11月)(秋田大学提供)



外国人研究者を 日本に招へいしたい

外国人特別研究員

担当：人物交流課

■一般

諸外国の優秀な若手研究者を1～2年間日本に招へいし、日本側受入研究者の指導のもとに共同研究に従事する機会を提供します。

■欧米短期

欧米諸国の博士号取得前後の若手研究者を比較的短期間(1～12か月)日本に招へいし、日本側受入研究者の指導のもとに共同研究に従事する機会を提供します。

■サマー・プログラム

欧米6か国の博士号取得前後の若手研究者を夏期2か月間日本に招へいし、日本文化等に関するオリエンテーションと、日本側受入研究者の指導のもとに共同研究に従事する機会を提供します。

■戦略的プログラム

主要先進国をはじめ特定の国との間で、特に将来が期待されている優秀な若手研究者を戦略的に日本に招へいし、我が国の研究者との研究協力関係を構築する機会を提供します。

<https://www.jsps.go.jp/j-fellow/index.html>

外国人招へい研究者

担当：人物交流課

■長期

中堅～教授級の優秀な諸外国の研究者を比較的長期間(2か月～10か月)日本に招へいし、我が国の研究者と共同研究を行う機会を提供します。

■短期

中堅～教授級の優秀な諸外国の研究者を短期間(14日～60日)日本に招へいし、我が国の研究者との討議・意見交換や講演等を行う機会を提供します。

<https://www.jsps.go.jp/j-inv/index.html>

論文博士号取得希望者に対する支援事業

担当：人物交流課

アジア・アフリカ諸国等の優れた研究者が、日本の大学において大学院の課程によらず論文提出によって博士の学位を取得するための支援をします。

<https://www.jsps.go.jp/j-ronpaku/index.html>

研究者ネットワークを 広げたい

研究者コミュニティ形成支援

担当：国際企画課

フェローシップ採用期間終了後も外国人研究者間のネットワークを継続できるよう、セミナー・シンポジウムの実施やニューズレター発行など、学振事業経験者による研究者コミュニティのフォローアップ活動を支援しています。令和2(2020)年1月現在、学振が認定した20の同窓会が組織されています。

https://www.jsps.go.jp/english/e-plaza/20_alumni.html



JSPSタイ同窓会第10回年次総会及びセミナー(平成31(2019)年2月 タイ・バンコク)

外国人研究者再招へい事業 (BRIDGE Fellowship Program)

担当：国際企画課

学振の事業に採用されて来日し、日本での研究活動を終了した外国人研究者のうち、学振公認の研究者コミュニティ(同窓会)の会員となっている者に対し、再度来日(14日～30日)して日本人研究者との研究協力関係を形成・維持・強化する機会を提供します。

<https://www.jsps.go.jp/j-plaza/bridge/index.html>

研究者ネットワーク支援サービス(JSPS-Net)

担当：国際企画課

世界の研究者と繋がることに関心を持つ研究者や研究支援に携わる方々のネットワーキングを支援し、その更なる拡大を後押しすることで、研究者の国際的な交流、活躍の一助となることを目指すSNSです。

<https://www.jsps-net.jsps.go.jp/>



国際的な経験を積みたい／ 若手研究者に国際的な 経験を積ませたい

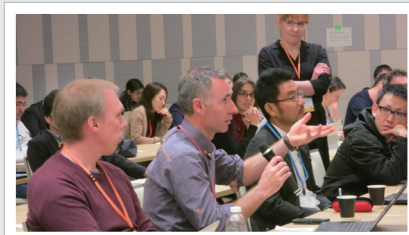


先端科学 (FoS) シンポジウム

担当：研究協力第一課

新進気鋭の若手研究者 (45才以下または博士の学位を取得後15年以下) が、最先端科学のトピックについて分野を越えて討議する合宿形式のシンポジウムを、各国対応機関との共催で実施します。

<https://www.jsps.go.jp/j-bilat/fos/index.html>



第3回日英先端科学 (UK-Japan FoS) シンポジウム参加者によるディスカッション (令和元(2019)年11月 日本・千葉)

HOPE ミーティング

担当：研究協力第一課

アジア・太平洋・アフリカ地域から選抜された優秀な博士課程学生等若手研究者が、ノーベル賞受賞者をはじめとする著名研究者や同世代の参加者と交流を行う合宿形式の会議を開催します。

<https://www.jsps.go.jp/hope/index.html>



第11回HOPEミーティング
ティム・ハント博士(2001年
ノーベル生理学・医学賞)
による講演

リンダウ・ノーベル賞受賞者会議派遣事業

担当：研究協力第一課

ノーベル賞受賞者を招き、若手研究者への講演や議論を行う会議 (ドイツ南部リンダウで開催) に、日本からの参加候補者を推薦するとともに参加に係る経費を支援します。

<https://www.jsps.go.jp/j-lindau/index.html>



Christian Flemming/Lindau Nobel Laureate Meetings

89の国・地域から集まった約600名の若手研究者たち (令和元(2019)年開催リンダウ会議)

アウトリーチ活動に 参加したい



サイエンス・ダイアログ

担当：人物交流課

学振の外国人特別研究員等に採用されている若手の外国人研究者が高等学校等を訪れ、自身の研究や出身国について英語で講義を行うプログラムです。

<https://www.jsps.go.jp/j-sdialogue/index.html>



ウディン・エムディ・ナジム博士・埼玉大学 (バングラデシュ)
(平成31(2019)年1月 長野県屋代高等学校)

ノーベル・プライズ・ダイアログ

担当：研究協力第一課

学生・若手研究者や企業関係者をはじめ広く一般を対象として、国内外のノーベル賞受賞者を含む著名な研究者・有識者を招き、公開での講演と対話 (パネルディスカッション、テーマ別分科会等) を行います。

https://www.jsps.go.jp/j-nobel_prize_dialogue/index.html



ノーベル賞受賞者による総括
パネルディスカッション
(ノーベル・プライズ・ダイア
ログ東京 2019)

国際生物学賞 担当：国際企画課

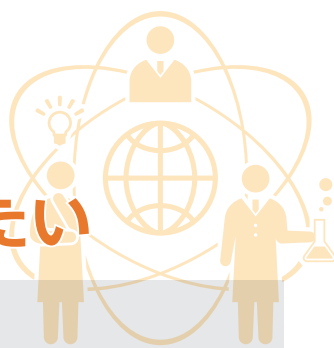
国際生物学賞は、委員会で選定される生物学の各領域で、最も優れた業績をあげた研究者に対して授与される賞です。毎年、授賞式後に開催される公開シンポジウムでは、受賞者による特別講演が行われます。

<https://www.jsps.go.jp/j-biol/index.html>



第35回国際生物学賞授賞式
(受賞者:ナオミ・ピアス博士)

海外で 長期間研究したい

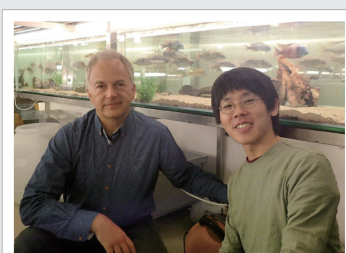


海外特別研究員事業

担当：海外派遣事業課

我が国における学術の将来を担う国際的視野に富む有能な研究者を養成・確保するため、優れた若手研究者が海外の特定の大学等研究機関において長期間研究に専念できるよう支援します。また、出産・育児・介護等各種ライフイベントによる研究中断を経た若手研究者を海外特別研究員 -RRA- として採用しています。

<https://www.jsps.go.jp/j-ab/index.html>



香川幸太郎 海外特別研究員
(スイス連邦水科学技術研究所・スイス)

若手研究者海外挑戦プログラム

担当：海外派遣事業課

海外という新たな環境へ挑戦し、3か月(90日)～1年程度海外の研究者と共同して研究に従事する機会を提供することを通じて、将来国際的な活躍が期待できる豊かな経験を持ち合わせた優秀な博士後期課程学生等の育成に寄与します。

<https://www.jsps.go.jp/j-abc/index.html>

海外経験を活かして 日本で研究したい



科学研究費助成事業 国際共同研究加速基金

担当：研究助成企画課

■帰国発展研究

海外の研究機関等において、優れた研究実績を有する独立した研究者が、日本に帰国後すぐに研究を開始できるよう、研究費を支援するものです。(3年以内)

<https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/index.html>

大学を 国際化したい



大学の海外活動の展開支援 担当：国際企画課

一部の海外研究連絡センター事務所を共同利用に供し、大学等の教職員等が海外に長期滞在できる場を提供することにより、大学の海外展開を支援します。

https://www.jsps.go.jp/j-kaigai_center/index.html



JUNBA2020「大学を変える
ファンドレイジング～米国から
学ぶリーダーシップと同窓生
を中心としたコミュニティ
作り～」(令和2(2020)年
1月 米国・サンフランシスコ)

海外研究連絡センター共同利用による成果の一例

●慶應義塾大学

ロンドン研究連絡センターとの共同利用により、国際広報に関する活動(平成23(2011)年から毎年、現地の高校生・大学生・研究者向けの情報提供のための「Experience Japan Exhibition」を主催)や現地留学中の本学学生支援のほか、英国を中心とする欧州の大学・機関の現地最新情報の収集等といった、本学の教育・研究連携の促進に資する活動を行うことができました。

●立命館大学

北京研究連絡センターとの共同利用により、留学説明会などにおいて多数の広報活動を行い、また、それらを通して得た新たなネットワークに基づく活動にも参加することで、多岐に亘り、立命館学園を紹介する機会を得ています。「日中高等教育交流連絡会(希平会)」(事務局：北京研究連絡センター)の会合にも定期的に参加し、日中間の教育・研究に関する情報交換を行っています。平成30(2018)年度には本学北京事務所の開設一周年記念事業として、北京研究連絡センターからのご支援のもと、清華大学との合同学術シンポジウムを開催し、継続的な学術交流に繋がっています。

大学職員の海外実務研修の実施

担当：国際企画課

海外研究連絡センターや東京本部において、大学等の事務系職員を対象に国際学術交流の実務や語学研修、海外実地研修などを実施します。

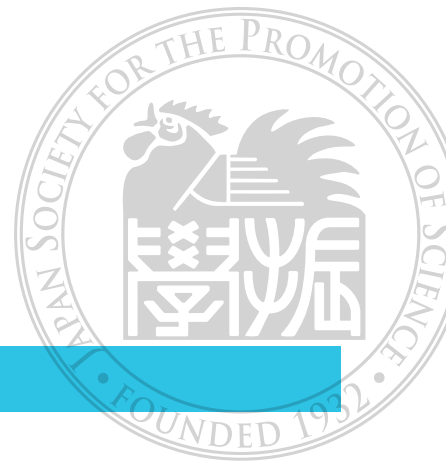
海外学術動向ポータルサイト 担当：国際企画課

大学等の国際展開活動の参考としていただくため、ポータルサイトを開設し、海外研究連絡センター等が収集した世界各国の高等教育や、学術動向に関する情報を、積極的に配信しています。

<http://www-overseas-news.jsps.go.jp>

お問い合わせ連絡先

プログラムの詳細や申請方法など、不明な点については、ウェブサイトをご覧いただくか、各担当窓口にお気軽にお問い合わせください。公募情報はすべてウェブサイトでお知らせします。



事業に関するお問い合わせは各担当部署へ

国際企画課

TEL : 03-3263-1798 E-mail : intlcoop1@jsps.go.jp

研究協力第一課

TEL : 03-3263-1826 E-mail : core-to-core@jsps.go.jp

研究協力第二課

TEL : 03-3263-1769 E-mail : nikokukan@jsps.go.jp

人物交流課

TEL : 03-3263-2480 E-mail : invitation@jsps.go.jp

海外派遣事業課

TEL : 03-3263-1943 E-mail : hakenjigyoka@jsps.go.jp

研究助成企画課

TEL : 03-3263-4927 E-mail : kksi-kaken@jsps.go.jp

海外研究連絡センター

米国

ワシントン研究連絡センター／ JSPS Washington Office

E-mail : info@jspsusa.org

URL : <http://www.jspsusa.org>

米国

サンフランシスコ研究連絡センター／ JSPS San Francisco Office

E-mail : webmaster@jspsusa-sf.org

URL : <https://www.jspsusa-sf.org>

ドイツ

ボン研究連絡センター／ JSPS Bonn Office

E-mail : info@jsps-bonn.de

URL : <https://www.jsps-bonn.de>

英国

ロンドン研究連絡センター／ JSPS London Office

E-mail : enquire@jsps.org

URL : <http://www.jsps.org>

スウェーデン

ストックホルム研究連絡センター／ JSPS Stockholm Office

E-mail : jsps-sto@jsps-sto.com

URL : <https://www.jsps-sto.com>

フランス

ストラズブール研究連絡センター／ JSPS Strasbourg Office

E-mail : jsps@unistra.fr

URL : <http://jsps.unistra.fr>

タイ

バンコク研究連絡センター／ JSPS Bangkok Office

E-mail : jspsbkk@jsps-th.org

URL : <http://www.jsps-th.org>

中国

北京研究連絡センター／ JSPS Beijing Office

E-mail : beijing@jsps.org.cn

URL : <http://www.jsps.org.cn>

エジプト

カイロ研究連絡センター／ JSPS Cairo Research Station

E-mail : webmaster@jspscairo.com

URL : <http://jspscairo.com>

ケニア

ナイロビ研究連絡センター／ JSPS Nairobi Research Station

E-mail : jsps1@africaonline.co.ke

URL : <http://www.jspsnairobi.org>

ブラジル

サンパウロ海外アドバイザー／ JSPS Science Advisor in São Paulo

E-mail : ninomiya@jspsbr.org

URL : <http://www.jsps.go.jp/english/saopaulo>

学振では、学術国際交流事業などの各種公募案内を始め最新の情報を、メールマガジンにて配信しています。配信を希望される方は、下記ウェブサイトからご登録ください。

<https://www.jsps.go.jp/j-mailmagazine/index.html>

令和2(2020)年3月発行



JSPS

独立行政法人 日本学術振興会 国際統括本部

公募はすべてウェブサイト上でお知らせします。
詳細はウェブサイトをご覧ください。

<https://www.jsps.go.jp>